

# 【中央区(ささえりあ熊本中央・本荘エリア)】

## 在宅医療・介護に関わる多職種連携研修会

### 「想いを共有しよう」

【開催日時】 平成26年3月25日(火) 19:00~21:00

【開催日時】 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

【内 容】

1) 講演「急性期病院連携室と介護支援専門員の立場から」

熊本医療センター地域医療連携室 MSW 西迫はづき 様  
(有)熊本在宅サービス 介護支援専門員 金子 裕美 様

2) グループワーク「想いを共有しよう」

～各職種が在宅生活支援においてできること～

講演→

グループ  
ワーク↓



### 参加者 143名(中央区の関係者中心)

・ 医師	7人	・ 理学療法士	5人	・ MSW等	7人
・ 看護師	54人	・ 作業療法士	5人	・ 相談員等	8人
(内訳) 病院	49人	・ 栄養士	2人	・ 社会福祉士	3人
診療所	0人	・ 介護支援専門員	22人	・ 介護福祉士等	11人
訪問看護ステーション	3人	・ 区役所	2人	・ その他	17人
その他	2人				

# グループワークで出された意見(一部抜粋)

## テーマ「想いを共有しよう」

多職種だと意図することが伝わらないことがある

情報共有ツール

病院－在宅、医療－介護の相互理解

同施設間でも職種の違いで連携できない

退院前カンファの重要性

在宅医がいるケースはうまくいく

退院支援に訪問看護が入るとスムーズ

ケアマネの資質向上、自己主張

ケアマネが退院するか知らされない

入院時にケアマネが患者情報をきちんと提供しておくことが大切

救急の場合でもケアマネの受診同行でうまくいった

急性期病院で希望しない延命措置があった。個人情報問題でケアマネにどこまでの情報を伝えていいのかわからない。

急性期病院退院後の生活を心配していたが、相談先を知らなかったただだと実感した

在宅生活が大変な人(独居、老老介護など)をどのように支えていくか

生命倫理に関する教育が必要

市民が利用できるサービスを知らない

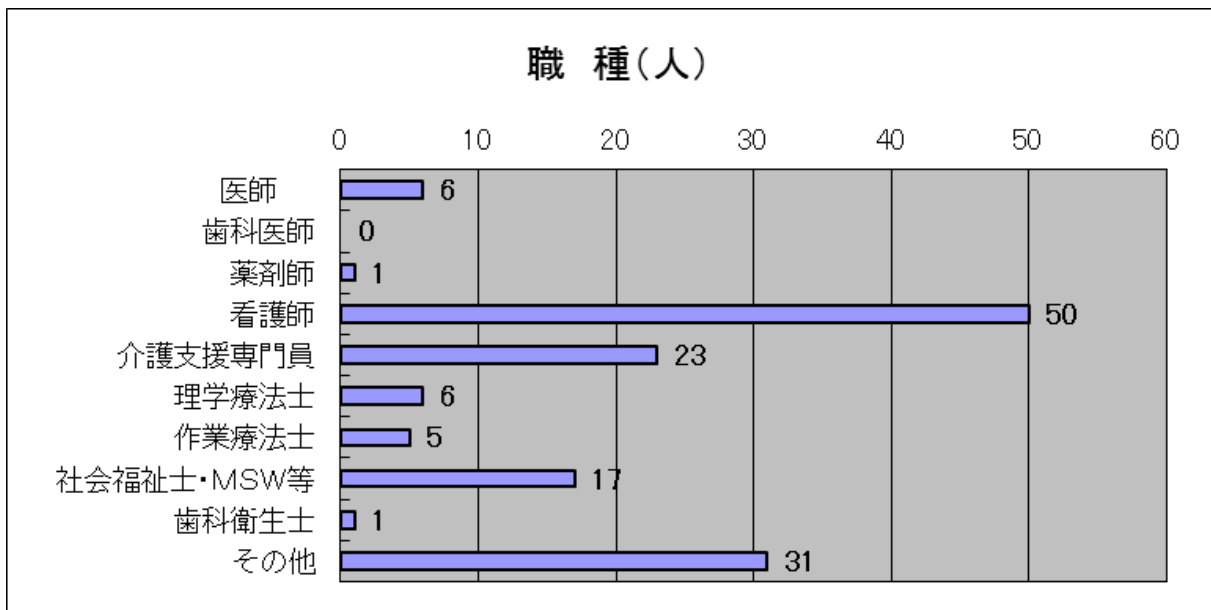
家族の思いを汲み取れていない

熊本市がアピールできる場所はないか(校区単位の取り組みなど)

# 研修会後のアンケート

回答数 140 (回答率 98%)

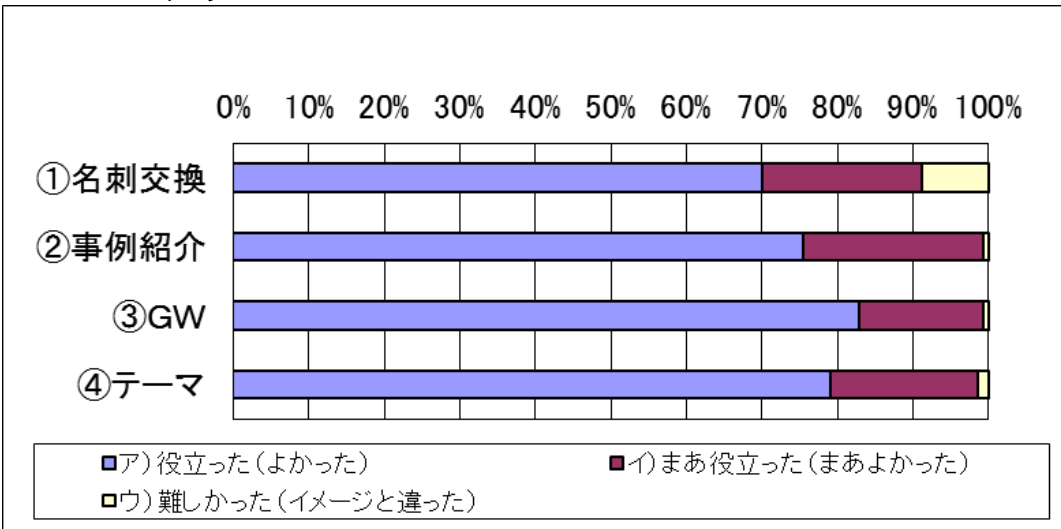
## 1 回答者



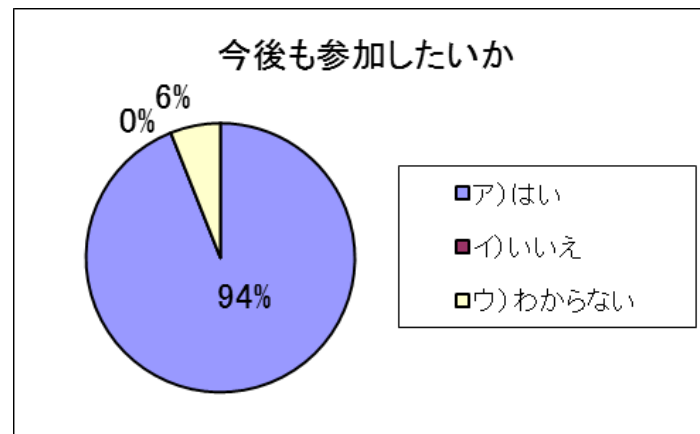
3 今回の研修会で新たに知り合った人数

平均 6.3人

## 2 プログラムについて



## 4 今後も参加したいか



## 4 研修会に関するご意見・ご感想 (一部抜粋)

- 普段顔を合わせる事のない多職種の方と意見交換できて様々な視点で患者を見る事ができるようになった。
- 中央区にこんなに熱心な方々が沢山いらっしゃる事がわかり、励みになった。
- 実務者レベルでのGWは非常に勉強になり、刺激も受けて明日からがんばろうとエネルギーをもらう気がした。顔が見えればもう一歩踏み込んで話が出来ると思うので、是非続けて欲しい。
- お互いの立場は違っても、思いは同じことがわかった。
- 様々な立場からの意見交換ができて良かった。顔が見える関係作りはとても大事だと思う。知り合いになることで連携が図れるきっかけになる。
- 救急病院勤務の医師や看護師がとても危機感を持って職務に取り組まれていることが伝わった。
- 色々な方の考えや思いを聞くことができ勉強になった。起こっている中より外部から見る事の大切さも分かるような気がした。
- 地域で働くケアマネの生の声を聞くことができ良い経験になった。リハの立場でももっと地域に貢献できると再確認できたので、ケアマネにもっとセラピスト(PT、OT)の関わり方を知ってもらう機会が欲しい。
- 薬局の方などとも意見交換できたらと思う。
- 自分が転院に向けて書くサマリーは、他施設でどう思われているのか分かり、今後気をつけることなど課題をつくる事ができた。これから改善してみてもまた次回参加してみたい。